

後援会通信「グロース」秋号

# GROWTH

—大学と家庭をむすぶ—

Linking the University with Families

2007 October

vol.

11



学窓に刻まれし歴史を旅する。





# “夜明け”の扉をあけ、東北の地に 新しい道を拓いた人「押川方義」

“太平の眠りを覚ます”と人びとが驚嘆したペリー提督率いる黒船四隻が、江戸湾浦賀に来航したのは1853(嘉永6)年。それから6年後、日本は230年にもおよぶ鎖国時代に終止符を打ち、海外に門戸を開きました。「安政の開国」です。近代日本の黎明期にあつて、西洋から本格的にもたらされたものの一つに“宗教”がありました。

プロテスタントのキリスト教は、1859(安政6)年にはすでに横浜、熊本、札幌などに伝道の拠点<sup>かつ</sup>を置き、草の根的な活動を展開していました。新しい知識に飢えた若者には教育の機会が与えられ、優秀な人材が輩出されていったのです。そのなかに日本で最初のプロテスタント教会の一員となった押川方義(1849-1928)がいました。旧伊予松山藩士の押川が洗礼を受けたのは、キリスト教禁令が解かれる前の1872(明治5)年。「御一新」の時代、自分が担うべき道を模索していた押川にとって、それは心に陽光が差し込んだ、夜明けの瞬間でもあつたのです。

1880(明治13)年、東北に入った押川は、市井の人びとに精力的に道を伝えて歩きます。その成果はめざましく、仙台教会を拠点に古川、石巻、岩沼などに教会が組織されるなど、大きな広がりを見せていきました。そして、ドイツ改革派教会の宣教師として来日したW.E.ホーイ(1858-1925)の協力を得、いよいよ東北全域を伝道圏に定めます。一方、急務とされた日本人牧師の養成にも取り組み始めました。押川とホーイを慕って集まった伝道者志望の学生6名を擁し、私塾として仙台神学校を設立。これが新時代の海原を目指した東北学院の出帆です。1886(明治19)年、薫風吹きわたる5月のことでした。

❖ 次号へ続く

|  |   |
|--|---|
| <p><b>CONTENTS</b></p> <p>01 学窓に刻まれし歴史を旅する。<br/>シリーズ①</p> <p>03 後援会会長挨拶<br/>丸森仲吾 会長</p> <p>04 学長挨拶・役員名簿<br/>星宮望 学長</p> <p>05 後援会総会報告<br/>総会のお知らせ</p> <p>06 後援会事業報告並びに予定<br/>事業報告のお知らせ</p> <p>07 CLOSE UP [同窓生インタビュー]<br/>(株)NTTDコモ東北 東海林哲郎さん</p> | <p>09 GAKUIN COLUMN<br/>＝教育と研究の世界＝<br/>村山貴俊 准教授・乙藤岳志 教授</p> <p>11 倶楽部拝見<br/>女子陸上競技部</p> <p>12 学務部より<br/>麻疹(はしか)流行に伴う緊急措置について</p> <p>13 学生部より<br/>奨学金制度の更なる充実に向けて</p> <p>14 就職部より<br/>H19年度 下半期就職行事予定表</p> |
|--|---|

微風に揺れる木々の葉も徐々に色づき始め、秋の深まりを感じさせる時節となりました。このたび、後援会通信「GROWTH(グロース)」の秋号が完成いたしました。東北学院大学後援会の会員の皆さまにお届けできますことを感謝しております。7月の後援会総会、7月から9月の地区後援会も無事に終え、学生が円滑に勉学や課外活動に励むための支援も滞りなく進んでおります。今後も大学と家庭の架け橋となるような誌面となることを願っております。

## 後援会会長・学長 挨拶



## 丸森 仲吾

Chugo Marumori

株式会社七十七銀行代表取締役頭取、社団法人全国地方銀行協会副会長などを歴任。現在、株式会社七十七銀行代表取締役会長、仙台商工会議所会頭、日本商工会議所副会長、東北経済連合会副会長などを務める。

街路樹の葉も色づき、いよいよ秋本番を迎えました。在学生のご父母の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より、本後援会の活動に対しまして、格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、今年の東北学院大学後援会総会は、大学のはしか対策の関係で急遽7月1日(日)に延期させていただき、ご父母の皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしました。それにもかかわらず多くのご父母の皆様にご出席いただきました。また、地区後援会にも、多くのご父母の皆様にご出席いただきました。

後援会総会は、泉キャンパスを会場とし、約800名のご父母が集い、賑やかに開催されました。「平成18年度庶務報告」「平成18年度取支決算報告」「平成19年度事業計画(案)」「平成19年度取支予算(案)」などをご審議いただき、お蔭様を持ちまして原案どおり承認されました。また、同時に開催されました大学開放プログラムにも多数のご参加をいただきました。特に、「学生の就職を考えるセミナー」や「パイオルガンコンサート」は、会場が一杯になり、ご父母の関心の高さに驚かされました。「学科別懇談会」と「個別相談コーナー」では、大学開放プログラムの終了時間ぎりぎりまで熱心に参加されており、「大学と家庭をむすぶ」役割を垣間見ることができました。

地区後援会は、去る7月14日(土)から9月1日(土)の主に週末を中心に、北は北海道札幌市から、南は東京都までの全29地区で開催し、総勢1,000名余りのご父母の皆様にご出席いただきました。「本学教員による公開講座」では、身近なテーマでお話しをさせていただき、大変好評をいただきました。また、全体会終了後の個別面談では、ご子女の就職問題や修学状況について、大学から派遣された教職員と直接ご相談いただきました。近年の厳しい経済状況の中、また、親元を離れて学生生活を送るご子女には何かとご心配ですが、地区後援会に出席されたご父母の皆様方の悩みや不安の解消に少しはお役に立てたのではないかと考えております。

ご承知のとおり、東北学院大学後援会は、在学生のご父母の皆様を会員として、ご子女の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため昭和24(1949)年に設立されました。設立されてから前半世紀以上が過ぎますが、これからも“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開してまいります。是非、会員の皆様方には、今後とも後援会活動に積極的にご参加いただき、さらなるご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。





## 星宮 望

Nozomu Hoshimiya

東北学院中学・高等学校卒業。東北大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程修了。工学博士。北海道大学教授、東北大学教授、東北大学副総長などを歴任し、平成16年3月東北大学を定年退官。同年4月より東北学院大学長に就任。平成19年4月より学校法人東北学院長を兼任。東北大学名誉教授。専門は電子工学。

この後援会は、在学生諸君の日々の学習や生活環境の向上などに寄与するべく、昭和24年から活動されていると伺っております。これまでも多くの課外活動グループにおける諸活動にご支援をいただくなど、正課の授業には現れない多面的な人材育成のプログラムに大きな貢献をさせていただいており、心から感謝申し上げます。

大学で学んだことや考え方を身につけて社会へ出てからの卒業生皆さんの活躍を期待しております。授業で直接には組み込みにくいことで学生諸君にお伝えしたいことの一例として今回は「失敗を生かす」ということについて考えてみたいと思います。

研究だけに限らず、種々の事業を実施する上での「失敗学」を提唱している方がいます。東京大学名誉教授の畑村洋太郎先生です。30年以上にわたって機械工学の研究・開発に携わってきた経験から、2000年頃に「失敗学」という概念を提唱し、失敗は隠さないで「直視」することによって克服できることを述べておられます。ちょうど、20世紀末頃に頻発した事故がきっかけになって分析を進められたようです。ウラン溶液が誤って混合されて臨界点に達して核分裂反応を起こしたJOCの臨界事故、雪印食品の食中毒事故、3銀行が統合されて間もないみずほ銀行のATMシステムでの口座振替の遅れや二重引き落としなどの障害などです。これらを分析して、責任追及ではなくて、今後、同じような失敗を起こさないための考察をして、それらを公表しておられます。

多くの示唆に富むことがあげられていますが、その一部を紹介すると、●失敗には許される失敗と、許されない失敗がある。前者は、個人や組織が成長していく間に通らなければならない失敗であり、後者は一つの失敗が起こったときにそれを隠し、知識をゆがめ、次に伝えないために不必要に繰り返される失敗である。●ほとんどの失敗は情報の途絶で生じる。●失敗が起こるごとに、よく「全く予期せぬことだった」という説明や弁明がされますが、その多くが、実は、「ほぼ必然的に失敗にいたっており、失敗は予測できる」とさえいえる。などと指摘しておられます。

そして、失敗を防ぐための具体的な方策の基本を提示しておられます。いわく、●「臭い物にふた」をやめよう。●「他山の石(いし)」を生かそう。●愚直な努力を続けよう。●部分最適が全体最悪をもたらすことがあることを知って、時には、成熟技術を封印する勇気も必要。などと述べておられます。

なお、畑村先生は、以上のような主旨を、形を変えて、平成18年8月からのNHK教育TVの「知を楽しむ」の番組の中で、「だから失敗は起こる」というタイトルでまとめた話をしておられます。ここでは、最近起こった、六本木ヒルズで起こった大型回転ドアに挟まれて男の子が死亡した事故やJR西日本で起こった脱線事故なども考察の対象として有益な分析と提案をしておられます。テキストが市販されていますのでご一読をお勧めいたします。

一般に、若い時に新しいことに挑戦して失敗することは許され、そしてそれを反省材料にして向上することができます。しかし、これらに気が付かないで、年長になってから起こす失敗には大きな代償が付くこととなります。私たちも個人としては当然ですが、グループあるいは組織としても、同じ失敗を繰り返さないよう、畑村先生の分析・提案を参考に努力したいものです。

本学では、キリスト教の教えを基本として、人間としての心のよりどころを学んでおりますので、社会に出てからの活躍を期待しているところです。後援会の会員諸氏におかれましては、これらのご理解の上、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

## 平成19年度 東北学院大学後援会 役員・顧問・参与・事務局長 事務局員 名簿

(平成19年7月2日現在)

任期(平成18年5月21日～平成20年5月後援会総会)

- **会 長**  
丸 森 伸 吾 (仙台市)
- **副会長**  
後 藤 久 幸 (仙台市) 三 島 卓 郎 (仙台市)
- **庶務担当理事**  
高 橋 祥 允 (仙台市)
- **会計担当理事**  
小 濱 良 雅 (仙台市)
- **理 事**  
伊 東 知 男 (仙台市) 寒 河 江 満 子 (仙台市)  
佐 久 間 敬 子 (仙台市) 村 山 令 記 (仙台市)  
渡 辺 静 吉 (仙台市) 門 脇 利 勝 (石巻市)  
桂 久 (札幌市) 成 田 智 典 (青森市)  
松 本 宏 (八戸市) 小 野 寺 久 美 子 (秋田市)  
深 澤 禎 彦 (横手市) 工 藤 敏 納 (盛岡市)  
大 友 敏 男 (宮古市) 及 川 和 夫 (北上市)  
浦 島 康 弘 (大船渡市) 金 子 泰 雄 (山形市)  
鈴 木 信 一 (酒田市) 國 分 容 子 (福島市)  
佐 々 木 信 之 (福島市) 只 野 裕 一 (相馬市)  
福 井 丈 夫 (新潟市)
- **監 事**  
浅 野 ひとみ (仙台市) 天 江 皓 一 (仙台市)  
白 木 進 (仙台市)
- **顧 問**  
赤 澤 昭 三 星 宮 望
- **参 与**  
関 谷 登 大 塚 浩 司  
遠 藤 健 一 遠 藤 和 朗  
斎 藤 誠 遠 藤 銀 朗  
佐 々 木 俊 三 柴 田 良 孝  
佐 々 木 哲 夫 井 上 義 比 古  
千 葉 昭 彦 原 田 善 教  
原 征 明 佐 藤 司 郎  
秋 葉 勉 高 木 龍 一 郎  
佐 々 木 文 彦
- **事務局長**  
鈴 木 孝 郎
- **事務局員**  
高 橋 嘉 男 菅 野 健  
井 上 捷 二 吉 田 知 致  
藤 光 孝 斎 藤 淳  
荒 孝 夫 桔 梗 元 子  
今 野 靖 齋 藤 英 夫  
草 野 正 聡

# 平成19年度 東北学院大学後援会総会報告

## 次第

日時 平成19年7月1日(日) 13時30分

会場 東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

司会 後援会事務局長 鈴木 孝郎

### 1. 開会宣言

2. 聖書朗読並びに祈禱 ..... 宗教部長 佐々木 哲夫

3. 挨拶 ..... 会長 丸森 仲吾  
学長 星宮 望

### 4. 議事

(1) 平成18年度後援会庶務報告について ..... 庶務担当理事 後藤 久幸

(2) 平成18年度後援会収支決算報告について ..... 会計担当理事 高橋 祥允

(3) 会計監査報告について ..... 監事 天江 皓一

(4) 平成19年度後援会事業計画(案)について ..... 庶務担当理事 後藤 久幸

(5) 平成19年度後援会収支予算(案)について ..... 会計担当理事 高橋 祥允

(6) その他

### 5. 後援会役員紹介

### 6. 閉会宣言



丸森会長挨拶



総会の様子

泉キャンパスに、約800名のご父母をお迎えし、平成19年度の後援会総会並びに大学開放プログラムを開催いたしました。総会で審議されました内容は次のとおりです。

#### (1) 平成18年度後援会庶務報告について

後藤久幸庶務担当理事より、役員人事、平成18年度役員会、平成18年度後援会総会及び大学開放プログラム、平成18年度地区後援会実施状況について報告があり、原案通り承認された。

#### (2) 平成18年度後援会収支決算報告について

高橋祥允会計担当理事より報告があり、原案通り承認された。

#### (3) 会計監査報告について

天江皓一監事より帳簿等が正確に整備されていることについて報告がなされた。

#### (4) 平成19年度後援会事業計画(案)について

後藤久幸庶務担当理事より、平成19年度後援会総会、平成19年度地区後援会について説明があり、原案通り承認された。

#### (5) 平成19年度後援会収支予算(案)について

高橋祥允会計担当理事より説明があり、原案通り承認された。



## 平成19年度 東北学院大学後援会事業報告並びに予定

### 平成19(2007)年

4月 4日(水) 【入学式】／後援会入会式 (於:仙台市体育館)

4月 後援会通信  
「GROWTH (グロース)」第10号発行

4月27日(金) 後援会役員会 (於:土樋キャンパス)

5月 「父母のための大学ガイド2007」発行

7月 1日(日) 後援会総会 (於:泉キャンパス)

7月14日(土) 地区後援会 (秋田・山形)

8月11日(土) 地区後援会 (八戸・福島・郡山)

8月17日(金) 地区後援会 (鶴岡・会津若松)

8月18日(土) 地区後援会 (盛岡・酒田・新潟)

8月23日(木) 地区後援会 (北上・水戸)

8月24日(金) 地区後援会 (一関・いわき・東京)

8月25日(土) 地区後援会 (気仙沼・原町・宇都宮)

8月30日(木) 地区後援会 (大館・宮古・横手)

8月31日(金) 地区後援会 (函館・弘前・釜石・新庄)

9月 1日(土) 地区後援会 (札幌・青森・大船渡・米沢)

9月18日(火) 東北学院大生のための合同企業セミナー  
(於:仙台国際センター)

10月 職業人によるトークイベント (1・2年生対象)  
(於:泉キャンパス)

後援会通信  
「GROWTH (グロース)」第11号発行

11月30日(金) 後援会役員会 (於:土樋キャンパス)

### 平成20(2008)年

2月 企業研究セミナー (於:土樋キャンパス)

3月24日(月) 【卒業式】 (於:仙台サンプラザホール)

※【】内は大学主催の主な行事。予定は変更になる場合もあります。

後援会では、在学生の円滑な学生生活と大学の充実発展に寄与するため、  
“大学と家庭をむすぶ”をモットーに、各種事業を展開し、以下のような助成をおこなっております。

体育会、学生会、文化会等の  
課外活動団体への助成

東北学院大学  
奨学金への助成

緊急貸与  
奨学金への助成

就職活動に対する助成  
( 合同企業セミナー開催、職業人によるトークイベント開催、  
面接フォローアップ講座開催、企業研究講座開催、  
東京連絡所開設など )



より多くの人の  
安心を繋ぐ架け橋へ。

株式会社NTTドコモ東北 代理店担当

とうかいりん てつろう  
東海林 哲郎 さん

仙台第三高等学校から東北学院大学文学部史学科に  
入学。大学での4年間は幾度となく一人旅を経験。  
2007年4月(株)NTTドコモ東北入社。現在は青森  
支店にて新人研修中。





今や全世界の普及台数が20億を超えるといわれる携帯電話。機種や機能がめまぐるしく変化する中、日本最大のシェアを誇り業界をリードする企業グループがある。2007年春、東海林哲郎さんが入社したのはその東北拠点となる(株)NTTドコモ東北。お客さま第一の姿勢で、懸命に新人研修に励む社会人1年目の姿がそこにあった。



## お客さま第一を胸に秘めて

利便性と快適性を求め続ける側から  
不安を解消し最善のサービスを提供する立場へ

大の旅行好きで、学生時代も電車や自転車で一人旅に時間を費やしていたという東海林さん。ゆくゆくは旅行業界で。そんな意識に変化が訪れたのは就職活動直前のことだった。「自分なりに働く意味を自問自答するようになり、最終的に探し当てた答えがより多くの人の役に立ちながら自己成長すること。そのためのフィールドがこの業界と企業でした」。爆発的に普及した携帯電話。今の時代、所持していなければ大多数の日常生活がままならない。着目したのは、そうしたユーザーの不安だった。「携帯電話なしでは生きられないといえば大袈裟かもしれませんが、持っていないければ困ることは容易に想像できました。少しでもユーザーの不安を解消し、サポートする立場にまわりたいと思ったんです」。

お客さまの一番近くにいられる喜び  
さまざまなオーダーに対して的確な提案を

入社以降、東海林さんは青森支店で研修に励んでいる。現在の主な業務は代理店契約を結んだ店舗での窓口対応。社会人1年目の身。本来なら商品知識やビジネスマナーの会得に追われ、あくせくしそうな状況だが、自身はこの研修期間を『新入社員の特権』と捉えている。「自分は代理店営業、時間が経つに連れてお客さまと直接接する機会も少なくなります。ただ、今はお客さまの一番近くにいられます。お客さま第一が根底にありますので、直接サービスなどを提案できるのはうれしいですね。困難なこともあるだろう。それでも、お客さまが一番近いところがうれしい。その言葉に誠実な人柄が滲み出ている」。

好きなことをとことん追求し続けた4年間  
学生時代こそが現在の自分を築き上げた原点

自身の性格を尋ねると「好奇心旺盛」という答えが返ってきた。「大学では徹底的に自分の興味を追求してきましたね。旅行が好きで、ガイドブックに載っていない土地を幾つも巡りました」。日本各地を訪れ、そこに暮らす人々とのふれあいはかけがえのない財産となっているという。また、所属していた英語会(E.S.S)で得たことも大きい。「忘れられないのが1年次の英語劇。自分は発音も悪く、声も小さかったんですが、洋画を字幕なしで観賞したり、夜の河原で発声練習をしたり、足りない部分を伸ばす努力を重ねて上手く自己表現できるようになりました」。困難に立ち向かうチャレンジ精神、何事にもプラス思考で取り組む原点は濃密な時間を過ごした学生時代にあるように感じた。

ひとつだけに長けたスペシャリストではない  
総合力で勝るオールマイティな存在に

代理店営業として、やがてはフォローやサポートにまわる立場。だからこそ今、この時間を大切にしているという。直属の上司も「入社間もない今がより多くのことを吸収できる時期。本人もそれが理解できているようです。失敗を恐れることなくチャレンジして経験を積み、これから入社してくる後輩の手本になってほしい」と期待を寄せる。最後に聞いた将来像について、東海林さんは曇りのない目で答えた。「すべての能力に長けたオールマイティな存在がめざすところですね。どんな声でも最後まで耳を傾けて、すべてを聞き出した上でお客さま一人ひとりに最善の提案ができればと思っています」。

# ＝ 教育と研究の世界 ＝

## ビジネスの動態を読み解く



経済学部経営学科 准教授

村山 貴俊

Takatoshi Murayama

私は、経営学、特に国際経営論や経営戦略論を研究しております。具体的な分析対象として、清涼飲料ビジネスや輸入住宅ビジネスなどに着目し調査を進めています。とりわけ清涼飲料ビジネスについては、約10年前の大学院生時代から研究を続けております。この度1つの成果として、本学の出版助成金を受け

『ビジネス・ダイナミックスの研究—戦後わが国の清涼飲料事業』（2007年3月、まほろば書房、514頁）を上梓しました。小著の狙いは、戦後わが国清涼飲料ビジネスを題材とし、ビジネスの「動態的把握」の重要性を主張することにあります。

戦後わが国清涼飲料ビジネスで最も重要な出来事は、終戦後に進駐軍と共に上陸してきた「コカ・コーラ社」の本格展開です。コカ・コーラ社は、フランチャイズ制、直販方式のルートセールス、斬新な広告・販促政策を武器に、短期間のうちに日本市場で圧倒的な地位を築き上げました。これに伴い「コカ・コーラ」や「ファンタ」に代表される炭酸飲料が、わが国清涼飲料市場の中核製品となります。1960年代には驚異的な成長力で日本の清涼飲料市場を牽引した炭酸飲料でしたが、1970年代にはその勢いが失速します。その背景には、「チクロショック」、「コーラ壘破裂」、「いんちぎジュース疑惑」などの社会問題と、それによる消費者の炭酸飲料離れがありました。

そして日本の清涼飲料ビジネスは、1970年代・80年代に、「製品多様化」という方向へと進みます。例えば、70年代には「缶コーヒー」、80年代には「スポーツドリンク」という新飲料が登場し、いずれも高い成長率を記録し大きな市場規模を有するに至ります。また、こうした市場や消費動向の変化を受けて、幾つかの会社が台頭してきます。例えば、缶コーヒーの「UCC」、「ポッカ」、スポーツドリンクの「大塚製薬」等

です。特に大塚製薬は、医薬品と清涼飲料を融合させた健康指向飲料で力を発揮し、コカ・コーラ社に次ぐ業界第2位を確保します。しかしこの時点で、コカ・コーラ社も、缶コーヒー「ジョージア」、スポーツドリンク「アクエリアス」という強力な製品の開発・販売に成功していたので、その優位性は依然として強固でありました。

90年代になると、さらに多様化が進みます。特に、「ニア・ウォーター」や「茶系飲料」など、消費者の健康指向の昂りに応じた新飲料が成長をみせます。このような消費者動向にうまく対応することで、新たな会社の成長がみられますが、90年代にはビール・洋酒系大手、すなわち「サントリー」、「キリン」、「アサヒ」、「サッポロ」等がアルコール飲料の頭打ちを背景に清涼飲料ビジネスに本腰をいれ始めます。また、緑茶飲料で強みを有する「伊藤園」、またタバコ事業から多角化を進める「JT」なども頭角を現します。実は、これら新飲料分野で、コカ・コーラ社は、強力なブランドの構築に成功しておりません。他方、急伸する緑茶飲料では、伊藤園「おーいお茶」、サントリー「伊右衛門」、キリン「生茶」等がブランド構築に成功しています。

コカ・コーラ社は、こうした状況に危機感を募らせ、同社のビジネスの根幹を支えてきた地域分割方式のフランチャイズ制の見直しを含むビジネス変革を進めざるを得なくなっています。

すなわちビジネスは動態的に変化していくものであり、経営トップがその変化の読み取りを誤ったり、また以前の失敗からの学習を怠れば、過去に強固な優位性を築いていても、組織（企業、大学、国、地方自治体など）は直ぐに存続危機に直面してしまうと考えられます。



ビジネスは  
動的に変化していくもの

— 村山 貴俊

## OSSの世界



教養学部情報科学科 教授

乙藤 岳志  
Takeshi Otofuji

今日の生活を送っていく上で、インターネット・携帯電話などの通信の利用は日常的なものとなってきています。今日の天気から、学術上の最新の知識まで、インターネットを介して得られる情報は爆発的といつてよいほどに増大してきています。コンピュータ、インターネットの進歩の度合いを揶揄する言葉でdogyearという言葉まで、現れるようになってきました。

インターネットの技術的進歩は人間の1年間が、犬の1年間に相当するという意味です。しかし、このような状況になってきたのは、ここ数年であり、それ以前は、今から考えるとのどかな生活があったわけです。

このような中で、コンピュータ、ネットワークをいかに安全で便利に利用できるか？ということを中心にした教育・研究が中心的なテーマとなっています。この点についても少しの説明が必要でしょう。

インターネットの発達は、日常生活を便利にしてくれているのみならず、コンピュータ利用における要であるソフトウェアの世界にも大きな変革をもたらしています。インターネットを用いた情報交換をもとに、世界的な広がりを持ったソフトウェア開発が市民権を獲得してきました。このような運動／方法はOSS(Opensourcesoftware)と呼ばれています。このような方法を用いれば、時差、言語に束縛されない自由な発想に基づいたソフトウェアの開発が可能であり、また現実に日夜新しいソフトウェアが生まれ続けています。現在、コンピュータを利用するうえで、日常的に必要なソフトウェアは慣れの問題などを除けばOSSでまかなえる段階まできているといつて構わないでしょう。OSSの哲学は一言でいえばgive and takeであり、「私が今困っていることは、誰かが解決してくれる。私が解決することによって、誰かの困っていることが解決される」といつてもよいでしょう。

OSSで有名なものとしては、どこかで聞かれたことがあるかもしれないLinuxというOS(基本プログラム)を中心に据えています。すべてオープンなわけですから、OSそのものをチューニングしてみたり、試験的な機能を追加してみたり、かなり自由な発想で、コンピュータをいじり

まわしているというのが正直なところでしょう。研究室での会話も「かなり前」は2ヶ月前程度を指しており、はじめて訪れた人は面食らうかもしれません。世界的にみても、自分がほしいコンピュータを自分で作るという傾向は、さまざまなグループで行われており、コンピュータそのものをシステムとしてみるには好都合な面をたくさん含んでいます。個人的な研究にとどまらず、学生の教育における基本を押さえながら実践力をつけるという意味では魅力的な題材となっています。

一方で、コンピュータシステムは商業利用の側面も持っており、この点を無視するわけにはいきません。コンピュータ/ソフトウェアメーカーの中には、アカデミックライセンスという見方によっては一種囲い込みに近い形態を利用できるものも少なくありません。現実世界との接点を忘れては、コンピュータシステムは意味がありませんので、学科として積極的にアカデミックライセンスを教育、研究に利用、活用しています。

研究室での合言葉は「利用できるコンピュータはまずはすべてつないでみよう」となります。アカデミックライセンスを用いたマイクロソフトのコンピュータから、OSSを用いて作成したコンピュータシステム、果てはゲーム機まで動員して、まずはつなげてみることに、次に利用方法の可能性の追求、さらにセキュリティに留意して、さまざまなコンピュータが渾然一体となったネットワークシステム作成の可能性を模索しています。

OSSの世界で、教育・研究を行ううえではネットワークにつながってさえすれば、無料で最新のソフトウェアの成果を利用することが可能になります。また、ネットワークの世界は「変化しているのが普通の状態」であり、1990年代に発明されたWEB(一般市民がいうインターネット)のような新しい利用方法がいつどんな形で現れるかわかりません。今までの知識が陳腐化してしまうかもしれない恐れもありますが、ダイナミックでわくわくする時代の中に生きているといつても構わないでしょう。

OSSを用いたコンピュータシステム、ネットワークシステムの開発を通して、安全で便利なシステムの構築方法の研究、また、世界的にほんのちよっぴりであっても構わないので還元できることを願って教育、研究の推進を行っています。

# 倶 楽 部 拝 見

## 女子陸上競技部



女子陸上競技部キャプテン  
**佐藤 多希子**さん  
(教養学部情報科学科3年)

2007年9月23日、歓喜に沸くはずの輪がそこにはなかった。

遡ること3日前、マネージャー2人を含む総勢17人で活動する女子陸上競技部の面々は、間近に迫った全日本大学女子駅伝東北地区予選会に向け最終調整の段階に入っていた。9月も半ばだというのに真夏のような炎天下、黙々とトラックを走り続ける選手たちの姿から予選会へかける意気込みが伝わる。「勝負の図式としては難しいが、とにかく勝つことにこだわっていく」とは女子陸上競技部を率いて12年目の遠藤善則監督。「もちろん本戦に出場するつもりです。一人ひとり悔いを残さないように全力で走り抜きます」。3年の佐藤多希子キャプテンからも力強いコメントが返ってくる。

昨年、女子陸上競技部は7秒差で本戦出場を逃した。それからの一年間、モチベーションが上がり、気が緩んだ時期もあったという。佐藤キャプテンはその当手を振り返る。「悔しい思いをしたはずなのに、練習に真剣味が足りないこともありました」。何か足りない。その意識が変わったのは夏前。選手たちは自主的に話し合いの場を持ち、7秒で負けたという悔しさを共有することで練習にも身が入り、顔つきも変わっていったという。そんな選手たちに知ってほしいことが遠藤監督にはあった。「全国大会は最高のパフォーマンスを見せる舞台。その感動は生涯忘れられない宝物になるはず。学生生活を充実したものにすることも出場させてあげたい」。

監督と部員が一丸となって挑んだ予選会。結果は3位。本戦出場の夢は来年へ持ち越された。しかし学生たちはまたひとまわり成長することだろう。そして監督の想いもきっと伝わるに違いない。



## 麻しん(はしか)流行 に伴う緊急措置について

学務部長

井上 義比古

今年の春から夏にかけて、学校伝染病に指定されている麻しん(はしか)が全国の大学で大流行し、5月に入って本学泉キャンパスにおいて複数の感染者が確認されました。そこで、本学では、自然災害その他の緊急時に全学的な休講措置などをとるために定めた「緊急時における休講及び試験延期等に関する実施要項」に基づいて、泉キャンパスの授業を2週間全面休講とする措置をとり、後援会総会も延期させていただきました。規模の大きな休講措置を実施したことに伴い、補講もまた長期間実施いたしました。そのうえ、前期の定期試験の時期を変更すると、学生の夏休みがなくなってしまうだけでなく、9月卒業を希望する学生や、各種の行事すべてに影響を与えることから、緊急時への対応として、夜間の特別補講としました。夜間の授業に備えて、宮城交通の協力のもと、バスの台数を増やし、後援会にご支援いただいたマイクロバスも活用しました。さらに、遠距離通学で夜間特別補講に出られない学生は、「公認欠席」とし、不利な取り扱いをしないよう、専任教員・非常勤講師に周知徹底しました。

これらの措置に加えて、感染の広がりを防ぐ目的から、免疫を持っていない学生に抗体検査と予防接種を強く推奨し、そのための費用を大学で負担することにしました。教育実習期間でもあったため、実習中や実習予定の学生に対しては、全員について抗体の有無および

健康状態を個別に確認し、万全をはかりました。

ご存じのように、麻しん(はしか)の病原体はきわめて感染力が強く、1人の感染者から10人~15人に伝染し、数名の感染者・発病者が確認された場合、そのまま放置すれば、急速に発病者が増加してゆきます。しかも、成長してからの罹患の場合、症状が重くなる例が多いのです。数名の感染者が確認されただけで2週間もの休講措置をとったうえ、抗体検査と予防接種を強く推奨した理由は、ここにあります。

なお、対応を決めかねていたらしい仙台圏の他大学から、本学の緊急時休講に関する制度や具体的な措置に対する問い合わせが多数あったため、上で述べた要項、緊急時の対応マニュアル、今回の措置に際して作成した、手順を表す基本的な文書類を含めて、ノウハウを提供しました。その後、それらの大学でも、同じような措置がとられたようです。

本学は、緊急時に対応する制度を他大学に先駆けて整えていただけでなく、実際の緊急時にも、教職員が一体となって、学生を守るための取り組みを行うことができました。私どもは、上で述べたような対応を比較的円滑に進めることができたのは、後援会総会延期および夜間特別補講の実施に際して皆様のご理解が得られたことや、マイクロバス購入へのご支援があったからこそであると考えています。本学は、勉学や課外活動の面だけでなく、緊急時対応の面から見ても安心していただける大学であり続けるつもりですので、今後も皆様のご理解とご支援を頂戴いたしたく、お願い申し上げます。



## 奨学金制度の 更なる充実に 向けて

東北学院は、創設時から学費の支弁が難しい学生に対して手を差し伸べてまいりました。学院創設時は「労働会」なるものを組織して「牛乳配達・新聞配達」などを学院の指導下で行なわせ、その利益を労働会に所属する学生の学資に充てておりました。学生の経済的困窮を知ったアメリカのミッションボードは同会に多額の奨学基金を寄せ学資の援助を行なっておりました。

このように東北学院は開学の当初から志を持って入学した学生が経済的理由で勉学の夢を諦めることのないように配慮しておりました。この精神は現在まで引き継がれ「東北学院大学奨学金」など5種類の奨学金として現在に至っております。

現在はミッションポートからの援助はなくなりましたが、それに代わり後援会から大きな援助をいただき、学生に奨学金を貸与しております。更に奨学金を充実させることを計画し、「東北学院教育振興基金募金」の目的の中に「奨学基金充実」を掲げに広く募金活動（総額募金目標額20億円内育英基金として5億円）を展開しております。

学生部としては、現在ある奨学金制度をより学生の経済的援助になるように新たな奨学金制度の構築に向けて検討を行なっております。同窓生や保護者の皆様のご協力を頂き、「奨学基金」を増やし、欧米の大学のように留学生を含めた希望者全員に十分な奨学金が給付出来る制度が一日も早く来ることを願っている次第です。



## 平成19年度 下半期就職行事 予定表

\*対象学年はほとんどが3年生ですが、1・2年生も参加できる行事もあります。詳細は各キャンパスの就職掲示板でお知らせしています。

|     | 就職活動ガイダンス  | 就職支援講演会                           | 適性検査・対策試験  | 公務員講座   | その他就職支援行事   |
|-----|--|-----------------------------------|--|---|---|
| 9月  | 第3回<br>業種・職種の研究の仕方について<br>業界・企業研究の具体的な方法について<br>就職情報誌サイト関係                                     |                                   |  | 教育科目徹底コース(1月迄)<br>専門科目徹底コース(1月迄)<br>教育科目演習コース(4月迄)<br>専門科目演習コース(4月迄)<br>公安系職種向教養科目演習コース(3月迄)<br>技術職コース(3月迄) | 企業と学生の<br>合同セミナー(4年生対象)   |
| 10月 | 第4回<br>求人票の見方について<br>就職登録について<br>自己PRと志望動機について<br>エントリーシート・履歴書の書き方について                         |                                   | 1年生適性検査<br>ファイリング・デザイナー検定講座<br>日経経済テスト                                     | 教養応用講座(2月迄)   | 先輩体験談<br>インターンシップ報告会<br>トークイベント(泉)                                  |
|     | 第5回<br>資料請求(エントリー)の仕方について<br>合同・企業セミナーの参加の心得<br>先輩・企業訪問の手順と心得<br>就職ノートの活用と情報の整理の仕方<br>1年生ガイダンス |                                   |  |   |   |
| 11月 | 第6回<br>2年生ガイダンス<br>服装・化粧の仕方について  | 第3回<br>就職活動のマナーについて<br>企業の求める人材とは | 情報処理適性検査<br>エントリーシート攻略テスト<br>論文文講座<br>SPI模擬試験<br>2年生適性検査<br>SEQ自己分析・行動特性検査 | 公務員模試   | 先輩アドバイス会  |
|     |  | 第4回<br>面接試験に<br>成功するには            |  |   |   |
| 12月 |  |                                   |  |   | 業界研究講座  |
| 1月  | 第7回<br>春休みの就職活動について<br>面接試験の傾向と対策<br>就職進路希望調査マークシート配布・回収                                       |                                   | エントリーシートテスト  |   | 3年生個人面談(泉)  |
| 2月  | 第8回<br>面接対策講座(多賀城)   |                                   |  | 公務員模試   | 企業研究セミナー  |
| 3月  |  |                                   |  | 公務員模試   | 企業と学生の<br>就職セミナー(多賀城)<br>宮城県・仙台市等<br>地方自治体説明会<br>国家公務員説明会<br>警察官説明会 |
| 4月  | 第9回<br>求人・就職登録について<br>現在の就職活動について  |                                   |  |   |   |

\*上記の就職部各行事については3年生が主になっています。キャンパスによって若干の日程とタイトルが異なる場合もあります。その都度掲示板等でお知らせいたしますので注意してください。各行事とも学生は参加するのが一番です。ご父母の方々のお声がけをよろしくお願いたします。

\*現時点で4年生の就職内定動向把握ができておりませんが、求人数は昨年を上回っておりますので、内定率も上回るだろうと予測しております。中には今から就職活動ということもあります。求人は若干となっても、ギリギリまでありますので**諦めないで最後の最後まで**就職することに前向きに希望をもって取り組んでください。各キャンパスの就職課・係の窓口をドンドンご利用ください。皆で頑張りましょう!!

# 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、次の事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

募金目標額  
**20億円**

- ① 東北学院榴ヶ岡高等学校体育館および管理棟建設
- ② 東北学院大学キャンパス整備
- ③ 東北学院会館(仮称)建設
- ④ 東北学院育英奨学基金の増額
- ⑤ 東北学院中学校高等学校校舎建設

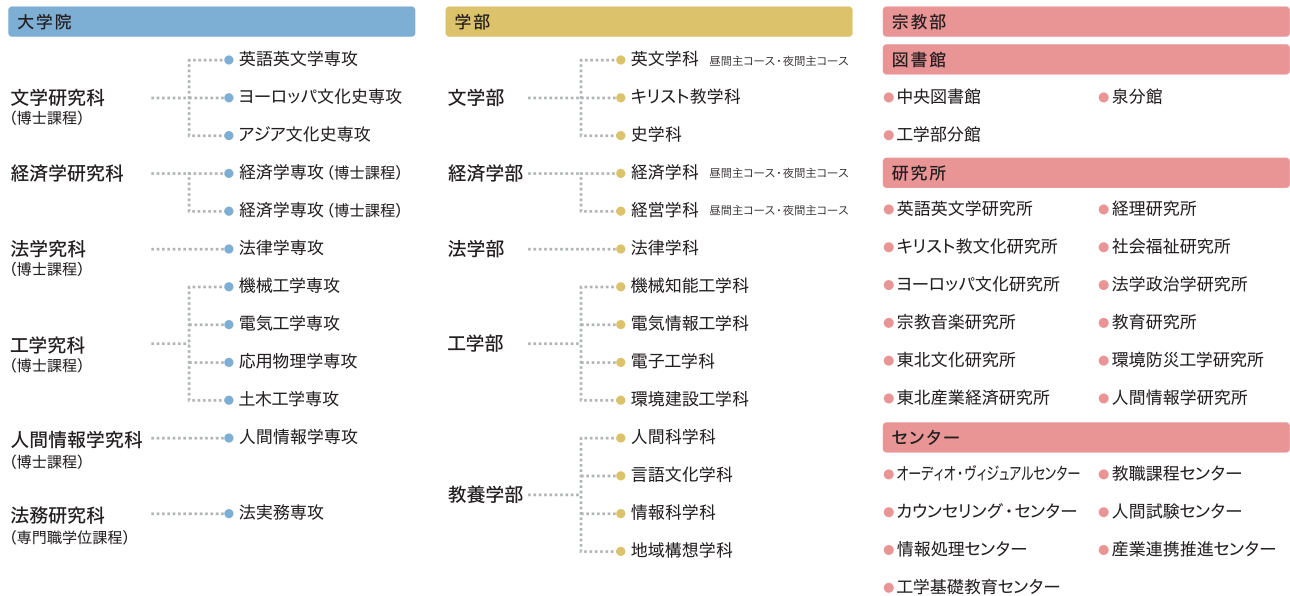
●詳しくは、こちらまで問い合わせください。

## 東北学院法人事務局財務部会計課

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
tel 022-264-6467 fax 022-264-6510

## ORGANIZATION 教学組織図

平成19(2007)年4月1日現在



## 東北学院大学

**土樋キャンパス**

大学院: 文学研究科、経済学研究科、法学研究科、法務研究科  
学 部: 文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、夜間主コース  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
tel 022-264-6421(総務課)  
fax 022-264-3030( // )

**多賀城キャンパス**

大学院: 工学研究科  
学 部: 工学部  
〒985-8537 多賀城市中央1-13-1  
tel 022-368-1116(総務課)  
fax 022-368-7070( // )

**泉キャンパス**

大学院: 人間情報学研究科  
学 部: 文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢2-1-1  
tel 022-375-1121(総務課)  
fax 022-375-4040( // )

## 東北学院大学後援会通信 GROWTH(グロス) vol.11 ■本誌に関するご意見・ご要望をお待ちしております。

発行日/平成19(2007)年10月  
編 集/東北学院大学後援会事務局(総務部総務課内)  
発 行/東北学院大学後援会 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 tel 022-264-6411 fax 022-264-3030  
E-mail kouenkai@staff.tohoku-gakuin.ac.jp URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/  
印 刷/ハリワコミュニケーションズ株式会社

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。  
【「個人情報保護法」への取り組みについて】平成17年4月1日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されたに伴い、東北学院大学後援会では個人情報の取り扱いについて、学校法人東北学院が制定した「学校法人東北学院個人情報保護規程」にのっとり、個人情報の適正な管理と保護に努めています。後援会事務局では、東北学院大学後援会の運営に必要な皆様様の個人情報をお預りしていますが、今後も個人情報保護法に基づき慎重に取り扱って参りますので、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。なお、後援会事務局で使用する個人情報の利用目的は次の通りです。  
●「父母のための大学ガイド」並びに「後援会通信「グロス」」の発行・送付 ●「後援会総会」並びに「地区後援会」の案内 ●その他、上記に関連する業務

○GROWTH(グロス)の意味は、「成長する」です。聖書には、「どんな種より小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる」(マタイによる福音書13章32節)、また、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」(コリントの信徒への手紙一3章6節)と記されています。東北学院大学の学生の皆さんが各分野において、知識や技術、教養を十分に修め、神と共に成長しつづ大きく成長するようという期待が本誌に込められています。



GROWTHは、環境に優しい森林認証紙を使用しています。